

○ 増原春輔の致電書簡
海軍勞働聯合總盟委員會本聯合會主席より
前略

二三、 講話

じ式のである。

講宣言書が敵の手に取られ、不日以降大會考課業する事
各聯合大機關大後援聯合會者會議も即ちその事、講
日當何時何處で開催される事、議論を開始せらるゝ事等。
正式參照此聯合大後援聯合會者會議は大會の了事後、大會考課
事中大いに外れ、後援更業精の無事大了了出用此種事等如
此當取次を總聯合會議事令回復し、主其事務を付託し、其

二、 勸告

稿 十二月本 直八零

川口綿糸大同本會

鄉友幾輔聯合

木下吉一 殿二名
船頭 駕山一等

増原操朗讀

財團協調會福岡出張所

労働組合會議評議員會に於て造船労働聯盟の脱退留保の勸
告理由如何

○ 答辯

伊藤卯四郎

労愛會は海軍關係並に本部との關係上九州協議會に正式加
盟してゐないのて今回之等の事情を考慮して案内狀を發せ
ず、尙造船労働聯盟に對する勸告は後日資本家の惡宣傳を
受けぬため脱退理由を究明したので飽迄脱退を阻止する爲
めではない。

1 宣言發表

増原操朗讀

2 規約別紙の通決

伊藤卯四郎説明

3 緊急動議
造船労働聯盟神野信一排撃の件 久保時造提案